

第16回広域避難者支援ミーティング in 東京（平成30年3月8日実施）でのグループワークでの意見まとめ

分類	気になったキーワード・声	支援者・支援団体としてできることは？
① 避難者間 (避難先⇄移住先・帰還)	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな移住 ○住宅の問題。避難先から他の地域に転居する人の増加。 ○避難者が移転する際に移転先の情報を伝えない。 ○競い合うから分断が生じる ○新しい所に移住した方を講師に呼んで話を聞いた。 ○遠方での活動になるので活動資金がないことがネック。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動資金の検討 ○移住先の団体情報等を事前に知ってもらうための支援。 ○地域資源を知っておく。 ○「大丈夫です」と言われても、声をかけ続ける(病気になったことを機に、不安になって、支援者の誘いに応じてくれるようになった)。
② 避難者間(避難先内)	<p>【立場の違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福島、宮城など、立場が違くと話ができない。 ○岩手・宮城と福島では避難理由が異なるため、友達になれない。 ○避難元の市町村によっては、同じ町の人と話したいと思う。 ○避難者でも立場が違くと集まりに出ても嫌な思いをする ○避難者同士の相互理解が潜在的可能性はあるものの難しい ○お金からむ ○制度という問題が全部に関与している <p>【つながりがない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難者同士の地域コミュニティの場が分からない人も。 ○一人暮らしの人は、きっかけがないとどこにも行かない。(誘えば行く) ○避難者同士の接点が減ってきた？ ○人の減少これからは決まらない ○友達がいない。 ○話したい。話ができることが大切だと思う。 ○家族や知り合いの方が亡くなりさびしくなっている。つながりを続けたい。 ○身近な場所にサロンがあればいい ○避難者同士だけで話せる場の必要性 ○他では話せない ○避難者同士の繋がりはできている。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が予測しない形で転居せざるを得なくなった転居者としてみる ○多様な決断がありうる。決断は変わり得ることを理解する ○永住先の相談を受けることもある。 	<p>【広域での交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当事者団体同士の交流を作ること ○当事者団体が活動しにくくなっている。ネットワーク構築ができないか ○広域でのネットワークができれば ○地域を超えた避難者同士の繋がりをこれからも作っていききたい。 <p>【サロン(交流の場作り)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大声を出して笑って集まれる場を作っていく。 ○宿泊でゆっくり広域避難者の方と話す場があるといい ○ゆるやかなつながり(ファミレスでお茶を飲む等)を作る・続けること。 ○「ずっと忘れない交流会」→生の声を届けた(中野区) ○多様なサロン選択できる ○母子サロン、同じ環境の人と話したい ○移動サロン(貧困・・・) <p>【情報を届ける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な活動を見つけるには「待つ」ことも重要。メッセージを発信 ○情報を届ける(地域包括などとつながったり団体同士が知り合い、つなげられるようにする) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報交換の場だけでなく、一緒にやっていくことを意識する ○弱者・強者＝支えられる、という認識はみじめ→自分で断るコツ ○個人としての支えられる人がいると良い ○支援者同士の顔がつながるようにしておく ○当事者の声を MSM の仲間に機会を見つけて届ける ○運営担当の減少→大学生(大学への呼びかけ、地方の学生、地方出身の学生、海外の学生)結果が見えるのがよかった
③ 避難者⇄移住・帰還した地域	<p>【移住・帰還先に対する不安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな移住先の避難者で笑って話をしている人はほとんどいない。 ○知っているだけでも、6世帯が移住先から戻っている。 ○地域に溶け込みたいけれど、積極的につなげられない。 ○移住先では、病院が近くに無く、無料タクシーも空気が無いなど大変だという話も聞いている。 ○新しい所で孤立しないようにしたい。 ○帰還しても商店、病院などの施設がなく不便と聞く。 ○帰還した人自身で生活環境を整える等の負担が大きいのではないか。 ○移転先の支援団体の情報が整備されていない ○転居した人の近況が気になる。 ○移住・帰還した地域にサロンがない(避難していた地域のサロンに通う。よいことかどうか悩む)。 ○終のすみかとして、馴染めるか？ ○移動する方をどうつなげるか？個別の限界を感じる ○帰還・単純に気になる、帰った人どうなの？ 	<p>【新たな移住先の支援につなぐ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな移住先の支援に繋がられるようにしたい。(現地の社協さんなど) ○②と⑤のようなつながりがあることを①の人に知らせること。 ○③のようなつながりができるように移住・帰還先の住民に避難者のことを知らせること。 <p>【戻ってきていいよ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いつでも戻って来ることができる場をつくる

	<p>【移住先での取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな移住先での避難者同士の繋がりづくりを模索中。 ○新たな移住先でサロンができ、さらにほかの地域との交流を始めている。 <p>【移住先での支援はいる人も】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難者として情報を得たい人とそうでない人がいる ○転居した先で「つながりはいない」。 ○既に避難者ではないので、「個別訪問はしない」。 ○戸建てよりも、団地の方があまり訪問してほしくない。 	
④ 支援者間	<ul style="list-style-type: none"> ○避難者を決めつけない。多様な人がいる。気分でも変わる。 ○繋いだ先の社協も様々。 ○そもそも避難者の存在が知られていないのではないか。 ○どこまで（いつまで）支援をするのか。交流会は決まった人が来る。来ていない人への対応は？ ○住宅の供与期限までにどう情報を届けるのか。 ○伴走支援をしていく必要があるのではないか？伴走支援員はどこにいるのか、誰なのか。避難者はどんな人に伴走してほしいのか。 ○「出会いの場」をつくっている支援する側も減少してくる（支援の継続） ○既存の地域支援者が現状を知っているのか？（地域で支援活動） ○支援者、助成金が減り、活動資金が枯渇 ○県⇒都、転居。情報、制度… ○移住した方の連絡先の情報を知りたいが、個人情報保護法の関係で入手しづらい ○組織内の異動があると、連携に影響が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧なコミュニケーションの姿勢が大切 ○いろいろな支援団体に避難者のことを知ってもらい、関わる団体を増やす。 ○避難者支援に関心のある人が寄り添うスキルを学ぶ機会を作る。 ○避難者支援をしている人同士が伴走支援や情報交換をすること。 ○息長く続けられるように財政的なバックアップが必要⇒企業など ○避難先の支援者同士の情報共有 ○各団体の支援の情報を、例えば JCN がまとめストックする ○支援の継続⇒必要性の理解⇒支援の見える化⇒企業などにアピール ○今回の MTG のような場で、話し合えることが必要。 ○できるだけ、社協に繋げている（連携先に共有している）。 ○支援者間のバランス、避難者とのそれぞれの支援者の距離を上手く活かす。
⑤ 避難者⇔支援者	<ul style="list-style-type: none"> ○支援者と話すとき、方言が気になるし、ざっくばらんな話ができない。 ○興味本位で聞いてくる人には話さない！ ○まだまだ吐き出せない人がいる。 ○支援したい方が避難者のコミュニティにアクセスできない ○「私は避難者なのに、優しくしてくれないの？」と思う。 ○転居後も、以前の避難先のサロンに参加できるところとできないところがある。 ○遠方のサロンや茶話会に来る人もいる。住まいの近くの交流会では話しにくいことがあるのでは。 ○転居した人が地域になじむまで支援したいが、行政区をまたぐと情報が入らず心配。 ○避難者に必要な情報をどう届けたら良いのか ○避難された方から声を出しづらくなったと聞く（原発・放射能） ○避難者、実態不明者多数 ○地域の管轄問題 ○まだつながりを持たない人はどうするか？ ○支援者同士、団体多数、担当者変更 ○就業した方のその後について ○子どもの支援が行き届いていない。 ○一人暮らしの男性はサロンに参加しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人たちが集まる広い場所。具体的な取り組みからスタート ○自ら内発的に出てくるまで待つてあげること ○弱者・強者ではないというメッセージ→共に考える ○支援者は「忘れていない」ことを伝えていく。 ○きっかけを待っている人に届く支援（新しい企画、情報発信方法の工夫）。 ○これまでとは異なる支援内容の工夫。 ○地域（行政区？）を超えた避難者支援取組み。 ○支援者と避難当事者グループの横のつながりを深め、情報交換を密に行うこと。 ○空き家の活用・サロンとして、住む所も・・・ ○サロンだけでなく新しい場の提案（コミュニティカフェ、こども食堂などで集まってやってみる） ○おばあちゃんの宿題教室、地域のこどもに宿題を教える（避難支援にかかわらず役割をもてる） ○運転資金、空き家の契約⇒支援必要 ○役割を持って活動できる場所 ○一人暮らしの男性など、お茶会に参加しにくいのであれば、アルコールのある場を設けてみる。「打上げ」などと称して、支援者の男性と一緒に飲んで、つながる。 ○男性向けの情報提供が必要。 ○ホテルでのディナー招待など、継続できる取組みは続けていく。 ○転居先からサロンに通っている方に関して、転居先の社協に連絡を入れる。 ○支援というより、地域住民として関わる。地域住民としての支援を受けられるように、個別の訪問やケアマネ、病院につなぐ。 ○楽しい話は地域の中で話せるように、困りごとは支援者へ、国へのことは県に相談できるように、。 ○個別訪問には信頼関係が必要。
⑥ 避難者⇔避難先地域	<ul style="list-style-type: none"> ○避難者と呼ばれたくない。避難者であると知られることが、良いことばかりではない。 ○避難先の住宅（都営など）では、他の方と顔を合わせづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○元気な老人のボランティア参加 ○趣味を通して地域の人とつながる

	<ul style="list-style-type: none"> ○お邪魔している感じがある ○つながることによって怖くなる。自分が決めたことが理解されない ○避難者でなく、転居者である。対等な人間として付きあうようになってほしい ○ふるさと→今いるところがふるさとなんじゃないか？ ○受け入れる自治体間の連携が必要 ○東京は元々地域の繋がりが少ない。 ○交通が複雑で、怖くて23区には行けない。 ○避難者自身にも心に余裕がないと…。 ○言葉の違いから学校に行けなかった子が、地域の親子教室に通う中で学校に行けるようになった。 ○当初はいたずらが多かったが、交流する中で減ってきた。(町田に住む人が多くなったから？) ○まずは避難者が自分のやりたいことを運営者としてやってみることも大事。 ○自身の経験を踏まえて地域の防災訓練に参加してみる。(実例あり。) ○地域とのかかわりは個人によって差がある。関わっている人と関わっていない人がいる。 ○お金が絡む「お金がでているからいいわね」地域との関わりがこわい ○地域にとけこめるのか？安定できるのか？ ○地域の中だけではダメ、避難者の集まりも必要 ○同じ団地内「ただでいつまでいるんだ・・・」(自治会長 etc) ○県人会、気になる元々東京にいる県人会とうまくいってる？ ○もっと知ってもらいたい ○会話の中でも自らは避難している事にはふれない ○県内だと、地元の人と話した時、他の避難者の話が出て、詰まる事がある ○地域にとけこむには……(7年という月日) ○避難者が隣家にいることを知らない地域住民が多い。 ○「お金をもらっているんでしょ？」と言われる。 ○転居先でつながりができていない。 ○一人暮らしの避難者や、認知症になった避難者を地域で見守る体制ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県人会の中に避難者を自由に出入りしてもらう ○地域包括につなげていく ○自治会の中に若い人が入っていき動きを出す ○ゆるやかに伴走しながら見守っていく ○地域の中でも支援したい、関わりたい人はいると思うが、どうしたらよいか分からないのだと思う。 →つながる場所作り。 ○ボランティアの様々な講座でも話をしたり、当事者の人に話してもらえる場をつくる ○子ども食堂の手伝いに参加してもらうなどして、地域との繋がりをつくる。男性は頼られることで、やりがいを感じる。 ○公のサロン・自治会・ふれあいボリスのつながりを活かす。 ○支援者と地域住民がつながるきっかけ・しかけをうまくつくる必要がある。 ○避難者の思いを「書く」(何か表現するツールを用いて) ことで、様々な考えがあることを地域住民に伝えることができるかもしれない。
⑦ 支援者NWと避難先地域	<ul style="list-style-type: none"> ○支援者NWと避難先の地域とがつながる必要性があるのではないか。 ○地域の県人会との連携 	
⑧その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>これからの生活</u>、転居(転入・転出)→高齢者の方 ・ 転出する方、移った先へのつなぎ方(避難者・・・・・・？地域・・・・・・) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報伝え方、戸別訪問、声かけて同行